

(1) 自殺の現状と関連する状況について

★自殺統計で用いられる値の解説（速報値、暫定値、確定値の違い）

【速報値】

- ・ある月の月末時点による自殺者数として、翌月上旬頃に公表される値です。集計項目は、月別、男女別、都道府県別の自殺者数。
- ・速報値であり、自殺者の職業や自殺の原因・動機別等の情報はありません。
- ・捜査中の事案や月末頃に発生した事案などで死因が自殺と特定できていない場合には、速報値への計上がなされませんので、速報値は最終的な確定値と比較して値が少なくなる傾向にあります。

【暫定値】

- ・ある月の翌月上旬頃に報告された自殺者数として、下旬頃に公表される値です。集計項目は速報値と同様に、月別、男女別、都道府県別の自殺者数。
- ・「地域における基礎資料」として、厚生労働省において、自殺の実態把握として地方公共団体職員等が利用することを目的に、警察庁から提供された自殺統計原票に基づくデータの加工統計を作成しており、職業別、原因・動機別などの項目で集計をしています。

【確定値】

- ・ある年の確定した自殺者数として、翌年3月中旬頃に公表される値です。速報値及び暫定値と同様に、月別、男女別、都道府県別の自殺者数。これ以外に、職業別や原因・動機別自殺者数などを集計しています。

ア 自殺統計から

◆ 自殺者数（出典 厚生労働省ホームページ ※速報値）

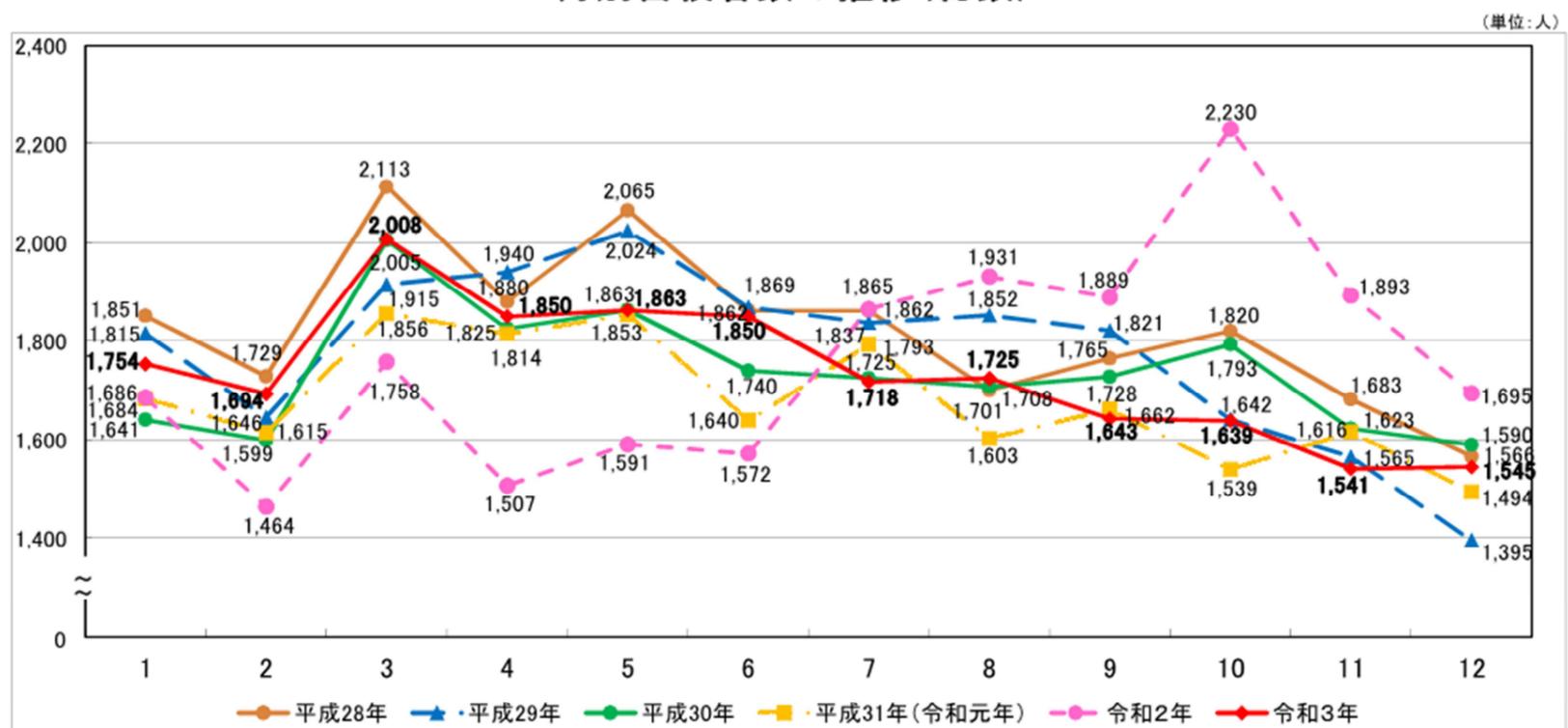
- ・月別自殺者数の推移をみると、令和3年（赤線）は令和2年（ピンク）と比較して6月まで増加していましたが、7月以降減少しています。
- ・年間累計自殺者数については、令和3年は20,830人で、令和2年より251人減少しました。

令和4年1月21日
厚生労働省自殺対策推進室

警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等

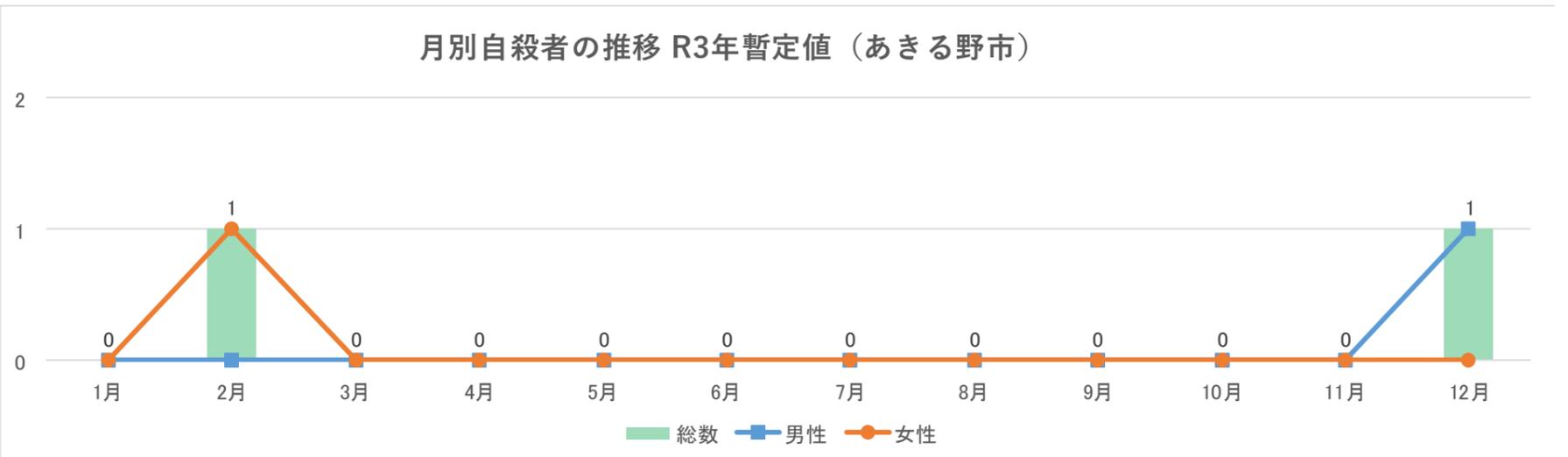
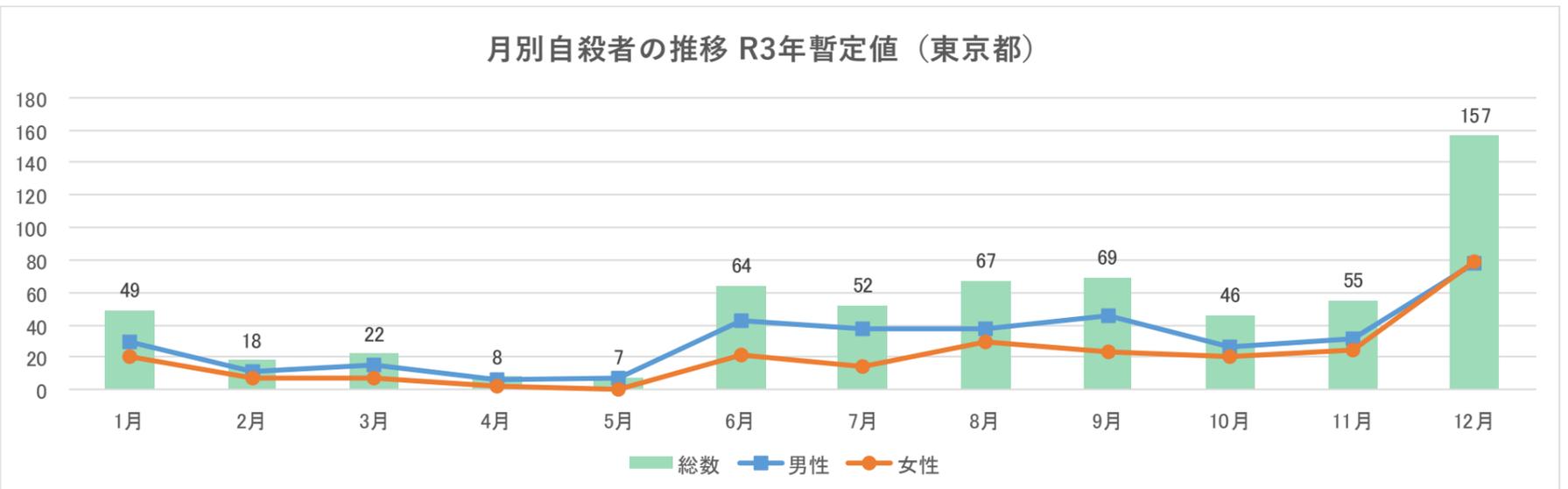
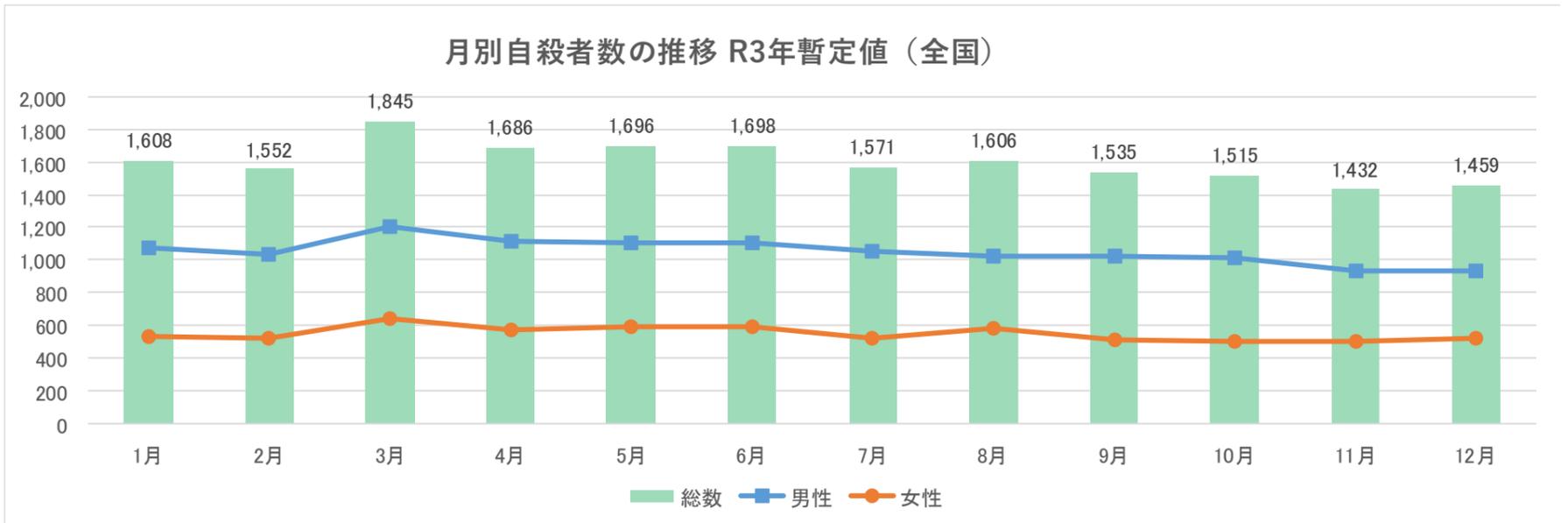
- 令和3年12月の自殺者数(1,545人:速報値)は、対前年同月比150人(約8.8%)減。
- 令和3年年間の累計自殺者数(20,830人:速報値)は、対前年比251人(約1.2%)減。

月別自殺者数の推移(総数)



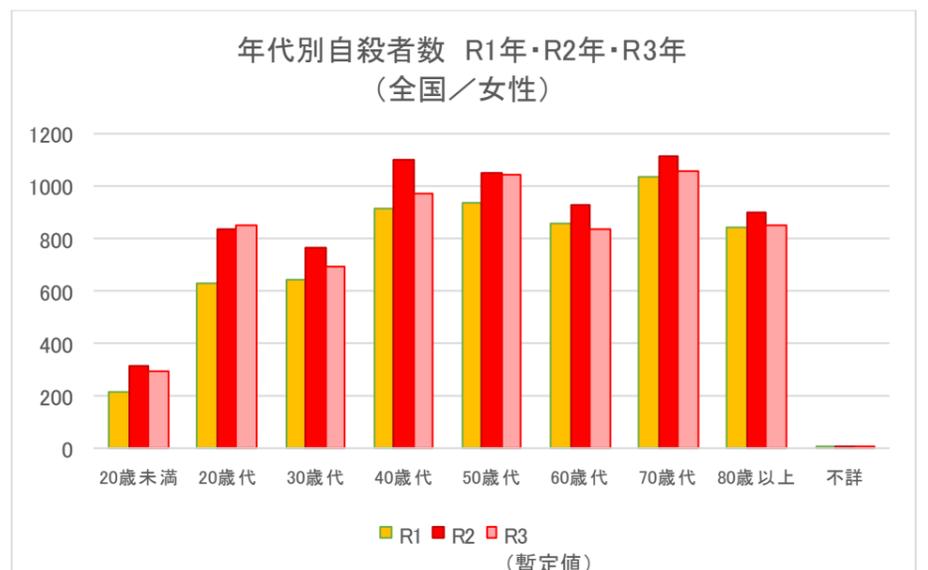
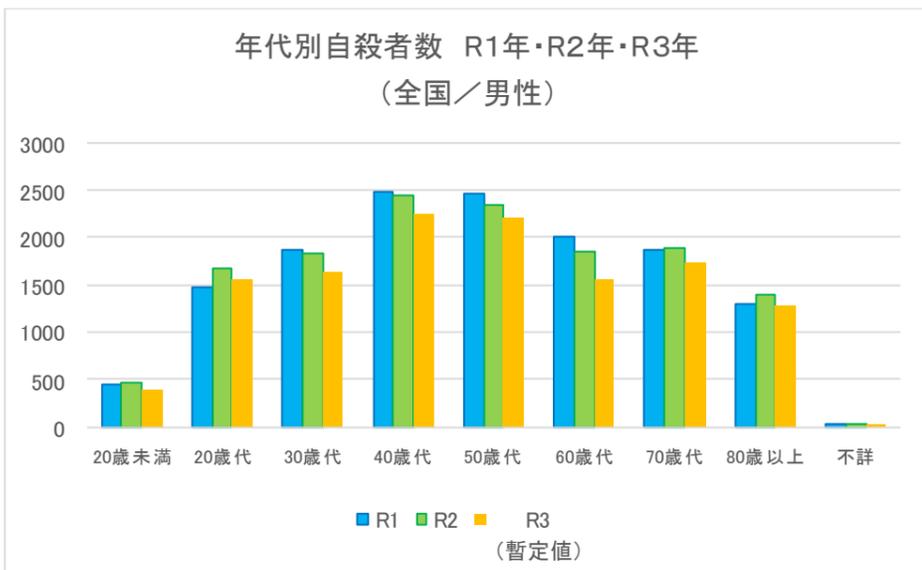
◆ 令和3年（1月～12月※暫定値）月別自殺者数 （出典：地域における自殺の基礎資料）

・全国の月別自殺者数で最も多かったのは3月、東京都は12月でした。あきる野市は2月と12月の2人でした。



◆ 自殺者の年代別状況（令和元年、令和2年、令和3年（暫定値）の比較） （出典 厚生労働省ホームページ 地域における自殺の基礎資料）

・令和元年（確定値）、令和2年（確定値）、令和3年（暫定値）を比較してみますと、令和3年に増加しているのは、20歳代の女性のみでした。
 ・男性はどの年代においても減少しました。

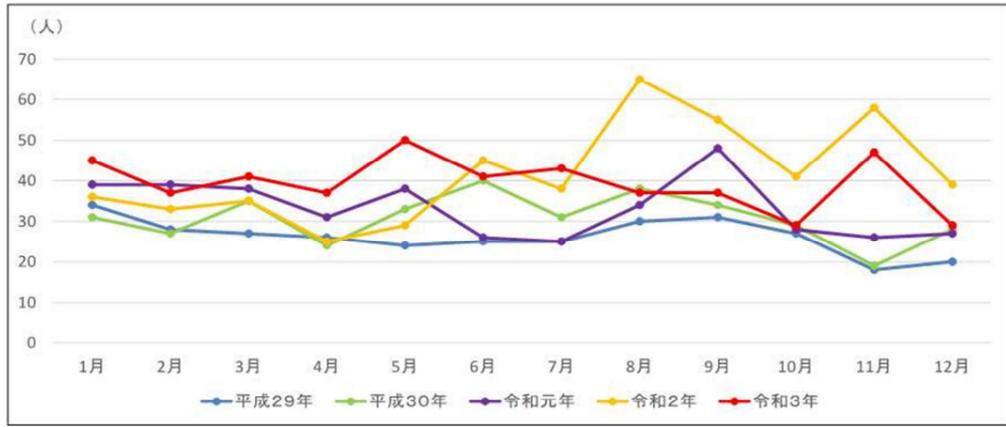


イ 自殺総合対策の推進に関する有識者会議から

◆ 児童・生徒の自殺者数 (出典 「第8回自殺総合対策の推進に関する有識者会議(令和4年2月24日厚生労働省)資料」)

- ・令和3年(赤線)は、過去4年間と比較し、1月、3月、4月、5月、7月は最も多くなりました。
- ・自殺者数の合計は、令和2年が最も多く、令和3年はその次に多い年となりました。

児童生徒の月別自殺者数[推移]①



(人)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	31	27	35	24	33	40	31	38	34	29	19	28	369
令和元年	39	39	38	31	38	26	25	34	48	28	26	27	399
令和2年	36	33	35	25	29	45	38	65	55	41	58	39	499
令和3年	45	37	41	37	50	41	43	37	37	29	47	29	473

(出典)「自殺の統計:地域における自殺の基礎資料」(暫定値)及び「自殺の統計:各年の状況」(確定値)を基に作成。

- ・学校種別に見ると女子の中学生と高校生の自殺者が年々増加しています。

児童生徒の月別自殺者数[推移]②

学校種及び男女別自殺者数 (人)

学校種	性別	月別												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
令和元年	小学生 総数	0	0	4	1	0	0	1	0	2	0	0	0	8
	小学生 男子	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	小学生 女子	0	0	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	5
	中学生 総数	13	8	10	9	7	5	7	12	15	5	10	11	112
	中学生 男子	5	4	7	8	3	3	3	8	8	3	5	8	65
	中学生 女子	8	4	3	1	4	2	4	4	7	2	5	3	47
令和2年	小学生 総数	26	31	24	21	31	21	17	22	31	23	16	16	279
	小学生 男子	18	20	15	16	20	16	9	18	24	17	12	14	199
	小学生 女子	8	11	9	5	11	5	8	4	7	6	4	2	80
	中学生 総数	13	14	10	7	6	17	9	18	16	10	10	16	146
	中学生 男子	6	4	4	5	4	13	6	9	10	5	5	6	77
	中学生 女子	7	10	6	2	2	4	3	9	6	5	5	10	69
令和3年	小学生 総数	2	0	3	1	0	0	2	1	1	0	0	1	11
	小学生 男子	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	小学生 女子	1	0	2	0	0	0	2	1	1	0	0	0	7
	中学生 総数	10	14	15	9	10	12	12	17	13	13	17	7	149
	中学生 男子	6	6	9	7	3	2	7	8	8	6	9	4	75
	中学生 女子	4	8	6	2	7	10	5	9	5	7	8	3	74
令和3年	高校生 総数	33	23	23	27	40	29	29	23	16	30	21	313	
	高校生 男子	24	9	12	13	24	11	13	11	16	10	17	170	
	高校生 女子	9	14	11	14	16	18	16	8	7	6	13	143	

(出典)「自殺の統計:地域における自殺の基礎資料」(暫定値)及び「自殺の統計:各年の状況」(確定値)を基に作成。

- ・原因・動機で多いものは、学業不振や進路の悩み、親子関係、病気の悩みとなっていますが、下記に記載されているように、自殺の多くは、多様かつ複合的な原因や背景を有しており、様々な要因が連鎖して起きています。

令和元年(平成31年)及び令和2年における児童生徒の自殺の原因・動機別表①(厚生労働省・警察庁) ~原因・動機数における上位10項目~

令和元年の順位	小項目	令和元年の人数	令和2年の人数(順位)	大項目
1	学業不振	43	52(2)	学校問題
2	その他進路に関する悩み	41	55(1)	学校問題
3	親子関係の不和	30	42(3)	家庭問題
4	家族からのしつけ・叱責	26	26(6)	家庭問題
5	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	26	40(4)	健康問題
6	その他学友との不和	24	26(7)	学校問題
7	入試に関する悩み	21	18(8)	学校問題
8	病気の悩み・影響(うつ病)	20	33(5)	健康問題
9	失恋	16	16(9)	男女問題
10	その他交際をめぐる悩み	13	5(17)	男女問題

(出典)「自殺の統計:各年の状況」を基に作成。

※児童生徒の自殺の原因・動機について、令和2年における10位の項目は「その他家族関係の不和(家庭問題)16人。(令和元年の場合、「その他家族関係の不和」は11位(11人))

※同順位の数が多い項目は複数記載されることがある。※小項目の「その他」は除く。※複数計上あり。

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

(参考) 令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によれば、令和2年度の自殺者数(415人)のうち、いじめの問題が背景にあるものは12件である。

エ 地域自殺実態プロファイル（2021）から

- ・地域自殺実態プロファイルとは、国が地方公共団体の地域自殺対策計画の策定を支援するために、すべての都道府県及び市長村の自殺の実態を分析したものです。

◆ 地域の主な自殺者の特徴

- ・全国とあきる野市は上位の特性が類似していますが、あきる野市のみの特性として男性 60 歳以上有職同居が上位になっています。
- ・東京都のみの特性として女性 40～59 歳無職同居が上位になっています。

【全国】

自殺者の特性上位	自殺者数 (H28～R2 年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1 位: 男性 60 歳以上無職同居	12,617	12.1%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2 位: 男性 40～59 歳有職同居	10,625	10.2%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3 位: 女性 60 歳以上無職同居	9,463	9.1%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4 位: 男性 60 歳以上無職独居	7,604	7.3%	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
5 位: 男性 20～39 歳有職同居	6,340	6.1%	職場の人間関係/仕事の悩み（ブラック企業）→パワハラ+過労→うつ状態→自殺

【東京都】

自殺者の特性上位	自殺者数 (H28～R1 年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1 位: 男性 40～59 歳有職同居	939	8.6%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2 位: 男性 60 歳以上無職同居	838	7.7%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
3 位: 男性 60 歳以上無職独居	765	7.0%	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
4 位: 女性 60 歳以上無職同居	730	6.7%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5 位: 女性 40～59 歳無職同居	653	6.0%	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

【あきる野市】

自殺者の特性上位	自殺者数 (H28～R1 年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1 位: 男性 60 歳以上無職同居	13	15.5%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2 位: 男性 40～59 歳有職同居	12	14.3%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3 位: 女性 60 歳以上無職同居	9	10.7%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4 位: 男性 60 歳以上有職同居	6	7.1%	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺
5 位: 男性 20～39 歳有職同居	6	7.1%	職場の人間関係/仕事の悩み（ブラック企業）→パワハラ+過労→うつ状態→自殺